

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572608982号
法人名	ユウケンガイシャ 有限会社 白岩の郷
事業所名	グループホーム花みづき
所在地	仙北市角館町白岩下西野1番地 (電話) 0187-55-5272
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年11月20日

【情報提供票より】 (平成20年10月31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤7人 非常勤1人 常勤換算7.2人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北市立角館総合病院、城南堂歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「自立と相生」を理念に掲げ、代表者及び全職員が利用者一人ひとりの気持ちを大事にし、常に「自分だったら」と利用者の立場にたってケアにあたっている。
開設から5年経過していることもあり、利用者と職員の関係は本当の家族のようで職員間のチームワークもよく、馴れ馴れしくもなく、よそよそしくもない気心のしれた関係で親子のように互いに支え合って暮らしている。
代表者及び管理者は職員の質の向上に意欲的で、年間研修計画に沿った研修参加や他事業所で利用者と共に過ごしてケアの参考にするなど、意識的に職員の知識・技術の研鑽に取り組んでいる。
また、地域との交流も盛んで、日常的な交流のほか避難訓練に住民が参加し、利用者の見守り・声かけの協力も得るなど地域全体で利用者の生活を支える仕組みができつつあり、地域に密着した事業所としてのあり方を模索している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	職員が弁当を持参することが課題として挙げられたが、代表者及び職員間で話し合った結果、利用者と同じ食卓で会話しながら食べていることに利用者も違和感がなく、むしろ会話が多くなることもあり、職員も現状を継続していくことを望んでいる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)	代表者及び管理者は自己評価がケアの質を見直す機会と前向きに捉え、職員の共通認識を図ったうえで全職員で評価に取り組み、ケアの質の確保と職員の意識向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議では事業所の現状報告や意見交換のほか、在宅での要援護者や家族、一人暮らしや孤立している方などの情報を収集し、地域で支えていくために事業所で何をできるかを話し合い、地域に開かれた事業所の必要性を確認のうえ実現に向け検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	連絡帳でのやり取りや投書箱の設置、電話や面会時の意見や要望集約のほか、今年度から「花みづき通信」を発行して情報提供に努めており、自宅に帰った際の利用者との関わり方について助言やお願いもしている。 また、意見や要望があれば利用者及び家族の思いを考慮し、職員間で意見交換のうえケアに生かしているほか、家族が意見や苦情などを言いやすい場として「家族会」の設立を検討中である。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会に加入して地域住民と共に避難訓練を実施しているほか、地域の祭りや小学校の発表会に参加したり、事業所の行事など日常的に遊びに来てくれる関係ができている。 また、利用者の外出時には近隣住民が声をかけ、お茶に誘ってくれるなど利用者の見守り協力体制もあり、地域の一員として受け入れられている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立と相生（あいおい）。当ホームはひとりひとりにあった必要な援助で自立を支えながら、お互いが助け合うことでひとりでは出来なかったことができたり、新しい経験をすることで価値ある人生を送って頂くことを支援します。	○	地域社会との係りをより、推進すること	従来からの「自立と相生」を基本理念として掲げ、お互いに支え合いながら住み慣れた地域で生活していくことを目指し、地域密着型事業所としての理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回の全体会議での確認と毎日の業務の中で意見交換している	○		毎月の会議や日々の業務の中で確認し合い、経営者及び管理者、職員が理念を共有してケアに生かしている。 また、理念を手書きで玄関などに掲示し、職員は常に「自分が楽しくないことは相手も楽しくない」との方針でケアにあたっている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームで行う行事を家族の方と地域の方たちと共催したり又、白岩小学校との交流を深めている。「花みづき便り」を発行し、理解を深めている。	○				
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の散歩や、畑いじりやお花の好きな近所さんとの交流もあり、良好な関係ができています。	○	お花見、秋の葡萄狩り等近所さんも一緒に出かけている。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会、小学校の発表会に参加し交流している。	○		町内会にも加入して地域の一員として町内の祭りや花見などに積極的に参加し、近隣小学校の運動会や発表会に出かけて交流を深めている。 また、事業所の夏祭りや敬老会などにボランティアが演芸を披露し、近所の方が遊びに来たり野菜や花を届けてくれるなど日常的に交流を図っている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員や老人クラブの会長さんで構成している運営推進会議で認知症への取り組み等2ヶ月毎に話合っている。	○	認知症高齢者への理解を深めたい。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	マンネリ化となり得る中で、自己評価及び外部評価は1年の通信簿として活かされている。	○	利用者家族の声がいつでも聞かれる環境。	職員は自己評価や外部評価をケアの見直しの機会と認識しており、職員間で意見交換しながら自己評価に取り組んでいる。 また、外部評価結果を会議で話し合い、課題について意見交換しながら、具体的な改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議のメンバーに利用者や家族代表も入って、意見は生かされている。	○		2か月に1回開催して事業の運営状況や取り組みを報告し、課題について意見や助言を受けたり、要望や希望を把握している。 また、日中遊びに来てくれる地域の方がおり、会議の中でデイサービスの必要性を検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや介護保険事務所、また市立病院等の医療連携、保健所とのウイルス対応、消防署との防災訓練や救命指導等緊密に取り組んでいる。	○	認知症高齢者への専門医との連携。	地域包括支援センターや社会福祉協議会、介護保険事務所等と連携し、事業所の運営状況を報告し、地域の要援護者情報を確認するなど情報共有に努めている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1度の全体会議や運営推進会議でも取り上げ理解を深めている。また必要な人に専門員を紹介している。	○	特に成年後見制度についてニーズも多く取り組みたい。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人で悩んだり、無理をすることがないように相談したり、協力してストレスを貯めないよう努めている。	○	職員のストレス軽減。			
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にパンフレット及び運営規定、重要事項説明書等の説明を行い契約書もお互い確認し、承諾書も貰っている。	○				
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情の申し出先として当ホーム（苦情箱）以外にも介護保険事務所等3ヶ所を掲げ、運営に反映させている。	○				
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の家族への連絡帳での報告や要望のやりとりの他預り金等の金銭管理の報告も定期的に報告している。	○		利用者の暮らしや健康状態を記録した連絡帳を家族に送付し、返送用封筒を同封して家族からの要望や意見を記載してもらっている。 また、今年度から「花みづき通信」を発行して事業所の様子を紹介しているほか、預かり金については出納帳のコピーを添えて明確にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に設置されている苦情箱の他、入所時に外部者の名称等を説明して反映させている。	○	家族会の設立を図りたい。	重要事項説明書に苦情対応窓口を明記して家族に説明し、事業所の玄関には投書箱を設けている。 また、家族の面会時には意向や要望を言ってもらうよう促しており、それをケアに生かすよう努力している。	○	ユニット増設に伴い「家族会」の設立を検討中であるため、家族からの苦情や意見などを集約し、その中からケアに生かしていけるよう早期の設立を期待したい。 また、投書箱の位置が他者の目につきやすいことから、設置場所を工夫して投書しやすい環境づくりに努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や入退居可否等については、審査委員会等で話し合い反映させている。	○				
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月初めの勤務体制シフトの際は出来る限り希望を取り入れて調整しており、月中に於いても柔軟に対応している。	○				
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の雇用については全員正社員として雇用しており、離職者も少ない。	○			ユニット増設に伴う異動により、以前からパートで従事していた方を採用するなど、利用者及び職員との馴染みの関係を重視して異動を最小限に抑え、利用者の精神的負担軽減に配慮している。また、代表者は自らケアに加わり職員の思いも考慮し、すべて正規雇用とするなど勤務条件を整え、離職防止に努めている。	
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外等に積極的に研修に参加しレベルアップを図っている。また、資格取得制度により手当アップ機会を設けている。	○			代表者は研修の必要性を認識しており、年間研修計画を作成し、すべての職員が受講できる体制を整えている。また、職員でテーマを決めて内部研修を実施しているほか、資格取得による手当支給など、職員の意欲向上につなげている。さらに、研修や実習生を積極的に受け入れ、職員自身のスキルアップを図っている。	
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年は他施設研修は12ヶ所を体験し、大曲仙北連絡協議会（33事業所）での勉強会を通じてサービスの質の向上に努めている。	○	大曲仙北連絡協議会には当ホームより役員を派遣しており積極的に今後も対応したい。		圏域の連絡協議会に加入し、代表者が役員を務めるなど同業者間の交流に関して積極的に関わっており、研修会や勉強会に積極的に参加している。また、他事業所にうかがい、昼食時までともに過ごしてケアの内容を参考にするなど、見学や研修を通じて質の向上につなげている。	
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務体制シフト時は出来る限り職員の都合、希望を取り入れるよう図っており、また、会社負担で年1回温泉旅行の福利厚生も図っている。	○				
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇進、昇給制度また、研修制度等で対応している。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の認定調査等で本人や家族との相談や希望等を聴く機会を持っている。	○				
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	月1回のホームと家族との連絡帳の交流や電話での報告、連絡、相談で対応している。	○				
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービス計画書により本人及び家族の意向を聞き、サービス支援を行っている。	○				
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族との意向を聞き、介護サービス計画書の作成を行い同意を得ている。	○			利用希望者には事前に管理者が自宅訪問し、本人及び家族の意向や状況等を確認している。 また、今後の暮らし方などを説明し、実際に事業所を見学したり事前の宿泊体験などを通じて、納得したうえで利用に結びつけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは嫁、姑の関係になったり友達関係になったりしながら共に支えあう関係作りをしている。	○			利用者と職員という意識はなく、お互いに支え合い、共に過ごす家族や仲間として接しており、調理法や昔の話から学ぶことも多々ある。 また、利用者同士の関係についても、エプロンをかけたり、食事やお茶の時間を共にし、会話しながら楽しい時間を共有している。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ことある毎に家族と連絡しあい一緒に考え、支えあえる関係作りにつとめている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いの話を聞く機会を持ったり外泊、外出等により本人と家族との支援を行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていた病院や美容室等馴染みの人や場所は可能な限り支援している。	○					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の話を良く聞きテーブルの隣同士の関係等にも気を配り、良い関係を築くことに努めている。	○					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム便り等で定期的に連絡を取っている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に夜勤時にはゆっくり話しを聞く時間を取り、悩みや相談に対応している。	○			利用者一人ひとりの思いや希望を日々の会話の中から感じ取り、眠れない方などは静かな夜間にゆっくりと話を聴いたり、受診時には車中での会話から今後の暮らし方や意向を感じ取るなど、1対1の場面をつくって本音を言いやすいよう配慮している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの理容店や美容室等本人の行きたい馴染みの店や人のいるところを利用するよう努めている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日勤者と夜勤者との引継ぎ時に現状把握報告、注意事項等で対応している。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー、利用者の担当者及びスタッフで話し合い、また、医療面については病院の医師の所見、ホーム常勤の看護師等の意見を聞き作成している。	○			利用者の意向を最優先に考え、家族の要望等を踏まえて主治医の意見を参考にし、計画作成担当者や看護師を含めた職員全員で意見交換のうえ、利用者の自立に向けた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	マナーにならないよう、変化や気になることがあれば計画の見直しを図り家族の了解を得て作成している。				介護計画を定期的に評価するとともに、利用者の状態変化や希望に応じて随時見直ししており、その都度家族の意向も確認している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録した連絡帳等でスタッフ全員で情報の共有を図り活かしている。	○				
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている					通院の際は家族に代わり付き添いしているほか、利用者の希望により外出や外泊支援を行っている。 また、地域のニーズに応じてユニットを増設しているほか、看護師による医療連携体制も確保している。	○ 代表者及び管理者は地域に密着した事業所として地域に貢献したいとの思いがあるため、住民の抱えている課題に対して事業所ができることは何か、各団体や民生委員などに働きかけながら情報収集や意見交換を行い、地域に開かれた事業所をめざして模索し、実現させることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーは民生委員、包括支援センター職員、元教育関係者、医療関係者、消防関係者等が関係しており、施設長は地域の防犯協会の役員として地域と深く係っている。	○				
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の在宅支援事業所のケアマネジャーには入所以前からの情報もあり支援を頂いている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に当ホームの運営推進会議のメンバーでもあり成年後見制度の対応で指導を頂いている。	○	成年後見制度の活用			
	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月1回の割合で往診にきており、また、歯科医も毎月1回口腔ケアの目的で来ており薬局においても都度支援を頂いている。	○			主治医と歯科医が毎月往診し、健康状態や口腔ケアについて指導を受けているほか、薬局の薬剤師からも相談・助言を受けられる体制を整えている。 また、市立病院とも連携し、医療相談や感染症対策などで指示を仰ぎ、行政の健康診断も受けている。	
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市立角館総合病院の専門医の他、県立リハビリセンターの専門医の支援を得ている。	○				
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの常勤看護師の支援を得ている。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	市立角館総合病院とその他個人医院と連携しており入所者との契約では最長2ヶ月の入院まで安心できるよう配慮しており、また早期に退院できるよう相談に努めている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケアに関する指針」を定め同意をもらい共有している。	○			「ターミナルケアに関する指針」を定め、終末期に事業所が対応できるケアについて、利用者の意向を優先し、家族に説明のうえ同意を得ており、職員間で共通認識を図っている。	
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	NO、111に同じ					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人及び家族、施設間で情報交換しケアマネジャーと相談しダメージを防ぐよう努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報を発表や講演等で使用する場合は家族の同意を得る等日常のケアでも徹底して対応している。				会議やミーティングでプライバシー保護の重要性について話し合い、職員の意識向上を図っており、記録の閲覧や居室の公開も家族の同意を得ている。 また、介助が必要な方には目立たないよう声かけし、利用者の人生経験を敬いながら、自分が嫌なことは相手にもしない方針でケアしている。	
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホームの理念である「自立と相生」の自立としての本人の思いや希望は可能な限り支援を図っている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのんびり、ゆったりと日常生活を送っている。				長年の主婦業から毎日台所に立つ方のほか、利用者がその日の状態に応じて散歩や買い物などに出かけ、ホールの畳で横になってテレビをみたり、ソファで外を見ながら会話するなど、思い通りに過ごせるよう支援している。 また、美容院に一人で行く方がいれば、美容院に連絡して見守りや送迎をしてもらうなど、利用者の意思を尊重している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の馴染みの店へ行っている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を見てもらうことで食事の楽しみや希望や意見を聞きコミュニケーションを図っている。また、盛り付け等の食事の準備や後片付けを役割として図りながら活かしている。	○		献立は利用者の希望を取り入れて作成し、調理や配膳、後片付けなど利用者のできることをお願いしている。 また、利用者と職員が同じテーブルにつき、職員の弁当のおかずを話題にしたり、お互いに補い合いながら和やかに楽しい雰囲気づくりに務めている。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は好みを聞いて飲んでもらっているがお酒については服薬の関係もあり医師と相談しながら対応している。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	寝たきりの利用者が1人おりますが出来る限り排便時はトイレでできるよう支援している。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴の他、汗や汚れによる入浴、また、利用者の希望を取り入れた入浴を支援している。			週2回の入浴日と決めているが、夏場の汗や汚れなどによるシャワー浴など、看護師のチェックの基で行っている。 また、冬期間は外出も兼ねて近隣の温泉施設に出かけており、寝たきりの方でも連れて行き入浴を楽しんでいる。	○	職員体制も関係するが、毎日の入浴や同性介助について利用者の希望や意向を確認し、できる限り対応できるよう工夫してほしい。
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣による、合った休息の取り方を個々に支援している。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や畑仕事、お掃除、買い物、家族との交流等個別の支援を図っている。			掃除や畑での野菜づくり、食事の支度などできることを行いながら、買い物や散歩、家族との電話や面会などで楽しみを見出している。 また、ショッピングセンターでの買い物や食事、温泉でのんびり過ごすなど、気分転換を図れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の楽しさやお金の大切さを支援するため定期的に機会を与えている。	○				
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩したり近くのお店に買い物に出かけたり、花栽培の農家へ遊びにいたりしている。	○		利用者一人ひとりの気分や希望に応じて散歩や自宅周辺に出かけているほか、ドライブを兼ねて離れたショッピングセンターに行って買い物や食事を楽しんでいる。 また、花見や紅葉見物などにも出かけ、通院の機会を利用して買い物しているほか、寝たきりの方でもできる限り外出できるよう支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外泊等も支援しており買い物、お花見、外食等温泉へも希望にそって対応している。	○				
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所カウンターに電話があり誰でもいつでも使用できるよう支援している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個室のスペースが7.8帖もあり家族や知人が4~5人入室しても十分な広さがあり、気楽に訪問できるように努めている。	○				
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは法令順守をモットーに「身体高速その他行動制限廃止マニュアル」を作成しケアに取り組んでいる。	○	「身体高速その他行動制限廃止マニュアル」の職員の理解を深める。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	ドアはいつでもオープンにしており出入り口には鍵はあるもののセンサーがついており職員は出入りの状況をいつでも把握できるシステムとなっている。	○		日中は玄関に鍵をかけず職員が見守りを徹底し、センサーによって人の出入りを把握しており、外出の際は職員が付き添うなど対応している。 また、利用者が一人で外出した際は、近所の方から声かけや見守りの協力を得ている。	○	利用者が一人で外出することを想定し、特定の住民だけでなく地域全体で見守る体制づくりのため、今後も積極的に理解と協力を得るため働きかけてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの日常生活の行動を把握して対応している。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品の管理や刃物等火器も含めて工夫して保管している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤハット」を作定し対策に取り組んでいる。	○	「ヒヤハット」の理解を深める。			
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防訓練の中に心肺蘇生の指導（2年に1回）も受けて対応している他医師や看護師の指導も受けている。	○	心肺蘇生の指導を継続する。			
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上（夜間訓練も含め）火災訓練を地域の人々と共同で行っている。			年2回以上は消防署の協力を得て避難訓練や救命講習を実施している。 また、開設から5年が経過して近隣住民にも理解されており、夜間も含めて近隣住民が訓練に参加している。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	5年以上も入所している利用者がおり身体的にも精神的にもリスクは多くなっているが都度家族に説明しそのらしさを大切に対応している。	○				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員にはマンネリにならないよう日々のケアに注意し、体調変化、早期発見に努め対応を話しあっている。	○				
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人の服薬も量と種類も多く管理には細心の注意を払って服薬支援を図っている。また、その症状と変化の確認には注意深く努めている。	○				
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く採り入れる献立と水分補給に努め適度な運動を促すよう努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに注意した支援を行っている他、月に1回は連携歯科医の訪問診療を受けている。	○				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック、水分量チェックは一人ひとりの状況に応じた支援をしている。				管理者が栄養士の資格をもち、バランスのとれた食事の提供に配慮しており、食事や水分摂取量をチェック表に記録して職員が把握している。また、利用者の状態に合わせて刻みやミキサー食など調理法を工夫し、一人ひとりに応じた対応を心がけている。	
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホーム内に予防対応のマニュアルが表示され、手洗い、うがい、の励行の他、寒冷気の空気の乾燥期の外出にはマスクの着用等注意を払っている。	○				
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は常に衛生管理を徹底し、食材は新鮮で安全なものを使用し、フキン等は毎日塩素消毒して管理に努めている。	○				
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入口は道路に面して小学校の通学路にもなっており子供たちも気楽に立ち寄れるよう開かれています。また、玄関まわりに草花の鉢植えがあり近所の人びとも気さくに訪れている。	○				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の設備には「自動換気システム」が個室ごとに作動しており、新しい空気が入り、臭いがないシステムとなっている。また南向きの住宅になっており、自然の採光と季節感のある樹木に恵まれている。				ホールには畳のスペースやソファがあり、窓も大きく温かい日差しが差し込み、外の景色を眺めながら会話を楽しむなど居心地の良い環境となっている。また、テレビの音も気にならない程度に保たれ、全館自動換気システムにより不快な臭いを解消して快適な空間づくりに努めている。	
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりもあり共用空間の中で思い思いに過ごせる状況にあると思う。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具等持ち込んで居心地よく過ごせるよう支援している。	○			ベッドのほか畳のある部屋もあり、利用者が使っていたタンスやテーブル、椅子などを持ち込み、レイアウトも自由に変えている。また、家族の写真や好みのカレンダー、置物などを飾り、利用者が安心できる居室づくりを支援している。	○ ベッドと畳のタイプがあるが、利用者が畳の部屋を希望しても空きがなければ使用できないため、簡易でも畳を敷いて対応するなど利用者の意向に沿った環境づくりを工夫してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	「自動換気システム」が設置されて空気のよどみや臭いは感じられない。また温度も一定に保たれている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋ごとにカーテンの色を変え、自分の部屋という意識を活かし、要所要所に手すりを設け、自立と安全に工夫をしている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には自分の写真があり、確認できるよう支援している。また、トイレの表示も目の高さに大きく張り紙で促している。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの裏庭にテラスがあり、お茶や食事を楽しんでいる。また、自前の畑もあり活動を楽しんでいる。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1 自立と支援のメリハリ
- 2 ターミナルケアの試み